

出張報告

報告日

令和4年8月2日

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮直人 重野正毅
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	会派による行政視察
日時	令和4年7月22日（金） 13:30～16:30
場所 （会場）	富山県富山市 産学官民の共創拠点「スケッチラボ（富山駅前）」
調査項目等	スマートシティ事業の推進について
概要	<p>①経緯：平成17年から公共交通を軸としたコンパクトシティ政策を推進している。ICT・IoT技術を使い情報を収集活用し、コンパクトシティの質を高めていくため、平成30年度からスマートシティ事業を開始した。</p> <p>②狙い：狙いは「脱・製造業」でデータビジネスを狙っているわけではない。IoT等の技術を使い、新サービスや高付加価値の商品開発を支援する。</p> <p>③内容：LPWAによるセンサーネットワークを配備し、市内98.9%のエリアをカバーしている。センサーネットワークは、新しいインフラとして市民や民間企業に無償解放している。行政では、子どもの見守り、農業や水産業、河川の水位監視、消雪装置の稼働監視、交通量、海洋へのプラゴミ流出対策などで活用している。民間では、実証実験として令和元年度23件、令和2年度12件の活用があった。</p> <p>④推進：当初、民間からの反応はなかった。産官学民で「スマートシティ推進協議会」を設立し意見徴収、メルマガの発行、出前講座を実施。センサーネットワークで何ができるか、「スケッチラボ」を場にオープンイノベーションを促進中である。</p> <p>⑤財源：導入コスト2.1億円（国の2分の1補助）、ランニングコスト0.34億円（国の2分の1補助）。</p> <p>⑥成果：「見える化（可視化）による行動変容」を市民や行政が考える機運の高まりがある。</p>

所 感 等

(三宮直人)

コンパクトシティ政策の質を高めるためのスマートシティ政策との説明を受けたが、2つの繋がりを具体的に整理するには至らなかった。しかし、行政の姿勢としてセンサーネットワークの無償解放によるオープンイノベーションを促す熱意には感心した。これを活用することによる産業競争力の向上が十分期待できる。柏崎市で同様の取組みは有るだろうか。将来への期待や広がりの方眼図で、柏崎あい・あーるエナジー(株)の動向を見ていく。

(重野正毅)

スケッチラボでは、「とやま未来共創会議」として未来の富山を創り上げていこうとする市民が集いアイデアを交換し合う場となっている。そこで取り入れているプレゼンの手法がフューチャーセッションという技法であり、大変興味深いものだった。スマートシティはデジタル化が必須であり、デジタルで課題を解決していくことを一つの方向としている。ただ、「コンパクトシティ施策を阻害するスマートシティ施策は実行しない」としていることの本質の理解が十分できなかった。説明の中には学校の学区再編の話も出てきて、その解決にどのように取り組んでいるのかが参考になった。地域のあるべき姿を目指すということで、周辺地域の活用、そこに居住する方々への支援など、柏崎として取り組めることについてこれからの調査研究課題となった。

